

## 当院 VAIVT の 8 年間の推移

医療法人衆和会 長崎腎病院 長崎腎クリニック

内野拓寿 田川秀明 中村阿郁 矢野利幸 高木伴幸 橋口純一郎 原田孝司 船越 哲

### 【背景】

vascular access (以下、VA)トラブルは透析合併症の中で最も頻度の高い合併症として認識されており、狭窄が進行した場合には多くの透析施設で vascular access interventional therapy (以下、VAIVT) が実施されている。

### 【目的】

当院 VAIVT の 8 年間の推移を報告する。

### 【対象・方法】

2012 年～2019 年の VAIVT 2158 件、延べ患者数 1003 名の 1 年毎の推移と臨床パラメータの関連性および VA 開存率を調査した。

### 【結果】

年間の VAIVT 件数は 239～315 件、患者一人当たり平均 2.0～2.2 件であり、変動はなかった。VAIVT 施行患者の性別、年齢、糖尿病の有無に差は認められなかった。透析年数は 2012 年の平均 9.2 年から徐々に低下し、2019 年の 6.2 年へ有意に低下した。VA の 1 年開存率は平均 23.5%であった。

### 【考察】

今回、当院における VAIVT 施行患者の 8 年間の推移では、VAIVT 施行患者の平均年齢に差は認められなかったが、透析年数は年々低下していたことより、VAIVT 施行患者の背景は VAIVT 技術進歩によって長期透析患者から透析導入初期の高齢者に移行していると思われた。